

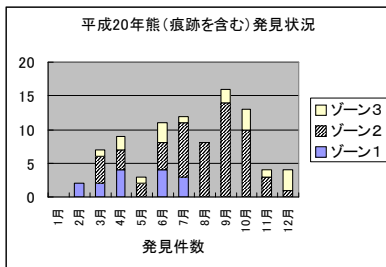
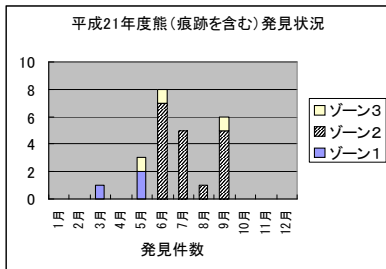
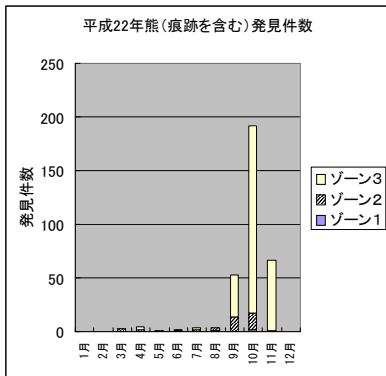
熊 出没

特に警戒すべき時期は！

ことしは愛知県豊田市の山間部でも熊を目撃したという情報が10月に多くあり、新聞でも何回か取り上げられていた。10月30日には今年に3頭目の射殺が行なわれた。今年とりわけ、熊の出没が多いようである。

自然を舞台に活動するオリエンテリング関係者にとっては非常に気になる状況であり、大会などを開催するにあたっては時期・場所選定にあたって安全面で十分注意して行なう必要がある。

最近の出没状況を富山市のホームページから調査した結果、今年は異常に発見件数が多いことがわかった。



発生状況を示すグラフは11月17日までの状況である。

ゾーンの区分については、平成20,21年度と22年度では若干ニュアンスが異なるが、ゾーン1は人間の活動が少ない地域、ゾーン2は里山・人工林、ゾーン3は民家・耕作地周辺である。

今年は特にゾーン3での出没がめだち、下へ降りてきていることを示している。発見状況を下の表に示す。37%が直接熊を目撃している。

平成22年10月富山市での発見状況

爪あとなど	60件(31%)
糞	28件(15%)
足跡	33件(17%)
成獣	43件(22%)
こぐま	17件(9%)
親子づれ	11件(6%)

その理由を熊の生息する奥山の人工林の増加とそれに伴うブナやミズナラの減少やブナやミズナラの不作を上げている。また、農林業の衰退により人が山に入らなくなったり、放置された果樹園がクマのえさとなり、それを求めてでてくると指摘しているという専門家もいる一方、またブナやミズナラの不作は繰り返し発生しており、今になって始まったことではないと指摘する専門家もいる。

人工林の増加は戦後から進められた政策であり、国内林業が山主の生計に役立たなくなった最近人工林へ切り替えているところはほとんど見かけない。私は農林業の衰退により、人が山に入らなくなり、人の気配・痕跡がクマに安心感を与えているのではと考える。愛知県幸田町でも特産の筆柿の生産量がピーク時の半分に減少しており、かつての柿畑はどうなっているのか気になっていたところである。山間部においてはこのような耕作放棄地の果実がクマのえさとなるのが大きいと考える。また、熊の胆などの需要もなくなるとともに猟師の減少も著しく、頭数の増加と鉄砲の音を聞かずに育ったクマが平気で里に下りてくることが考

えられる。

出没月も年によって大きく異なり、平成21年は10月以降出没していなかったが、平成20年は2月から12月まで幅広い期間出没しており、最新情報をしっかり入手しイベントの企画にあたりたい。熊は急に出会うとびっくりして襲ってくるので、山に入るときは、小さな鈴をぶら下げたりラジオを鳴らしたりして、人間の存在を予め知らせるなど事故予防に心がけたい。また、熊警戒地域では絶対山に入らないように気をつけたい。



熊の糞



幹に付けられた鋭い熊の爪あと(縦の筋)

準天頂衛星「みちびき」

9月11日に「みちびき初号機」がうちあげられた。プロジェクトマネージャーは「準天頂衛星システムは、山間地、ビル影に影響されず全国をほぼ100%カバーする高精度の測位サービスの提供を実現します」と宇宙航空研究開発機構(JAXA)のホームページで述べている。

また、「カーナビにおいても、道から外れた位置に現在位置が標示される場合があるがこれも解消される」という

報道もあると、すでに市販されているカーナビでも直ちに情報が正確になるうけとめてしまいそうである。

現在、オリエンテーリングマップの調査に使われているGPSは、位置精度はまず満足できるものの、しばしば位置を出すために必要な衛星数が足りず測定が滞ることがあった。特に沢などでは頻発していた。安価なハンディGPS端末は20mもの誤差があり、精度の点で問題があった。GPS調査のスピードアップが図れ、また地図調査をしながらハンディGPSで位置確認ができればより精度のよい0-mapの製作が可能となる。

しかし、「みちびき」からの信号は既に市販されているカーナビなどのGPS受信機では受信することができない。JAXAを含めた関係機関では、受信機メーカーの対応を促進しているようだ。

準天頂衛星が、日本の天頂付近に常に1機以上見えるようにするためには、最低3機の衛星が必要となる。準天頂衛星初号機「みちびき」により準天頂衛星システムの第1段階として技術実証・利用実証を行い、その結果を評価した上で3機の準天頂衛星によるシステム実証を実施する第2段階へ進むことになっている。ということで、我々が実際に活用できるのはまだ先のこととなりそうだ。



九州

九州名物？追跡オリエンテーリング

ボーイスカウトで行なわれているゲームに追跡ハイクというものがある。これは先行者と追跡者に分かれ、先行者が残した手がかりをたどっていく、ゲーム化された知的なハイキングとウィキペディアで説明させている。

北九州OLCでは9月20日若松区の響灘公園でファミリー初心者オリエンテーリング大会にて昨年好評だった追跡オリエンテーリングを実施した。このイベントでは通常のオリエンテーリン

グだけではなくビンゴ、フォト、撤収オリエンテーリングなど多様な形式のオリエンテーリングを、毎年変化をつけるとともに、500m四方という狭いトレインながらオリエンテーリングを楽しんでもらっている。

追跡オリエンテーリングを簡単に説明すると、基本的に通常のポイントオリエンテーリングであるが、コース地図にはスタートから1番の間しか線は引かれていない。コントロール記号の書かれた○がいくつか書かれているのみであり、2番から先の回る順番は示されていない。2番は1番で次はコントロール記号何番という風に示され、順次、次の記号が示され、ゴールするものである。

9月20日(敬老の日)に開催されたこの大会には個人17名、グループ8組30名が参加し、オリエンテーリングを楽しんだ。

(北九州オリエンテーリングクラブ会報より)

中国・四国

ロゲイン独り立ち？四国初！

ウォーキングとおいしい南国地元料理で楽しく健康づくり。高知県南国市では市やながおか温泉、農協など地元と日本ロゲイン協会が一体となってロゲイン大会を11月21日に開催した。

ロゲインは制限時間2時間で、コントロール通過証明は現地を撮影した写真を使う形で行なわれた。

参加状況は実行委員会からいただいた情報によると29チーム94名の参加だったそうです。

写真挿入予定

(フェスティバル実行委員会HPより)

北陸

市町村対抗戦実施

石川県では第62回県民体育大会オリエンテーリングで市町村対抗戦を実施した。

市町村対抗戦に切り替えて今年で4回目となる。小松市の「一口生水」で6市2町から選手役員129名が参加した。当日8月7日は立秋であるが最高33度と暑かった。競技はミドルディ

タンスで3名の合計タイムで競った。昨年まではペナルティ数に応じタイムを加算していたが、今年は失格扱いとした。クラスは一般男子、一般女子、壮年男子の2クラスで、かほく市が一般女子と壮年男子で1位を獲得し総合優勝に輝いた。(石川県協会)

東海

万博後初の大会

2001年6月の東海クラブカップリレーを最後に、万博の準備と復帰のためオリエンテーリング大会が開催できなかった旧愛知県青少年公園が愛・地球博記念公園として生まれ変わり、11月7日に公園として再開後初の大会が「愛知スポレク」として実施された。

地図は愛知県オリエンテーリング協会作成の1/10,000とつるまいオリエンテーリングクラブ作成のスプリント用1/5000の2種類を一挙に公開した。

オリエンテーリングに使えるのは公園の一部分のみで狭い上、森に入りにくい雰囲気が高まり、オリエンテーリングの楽しみはやや低下した。しかし、県の関係部署の方も大会に参加され、県との親密さは増した。今後も連携を密にして、使えるトレインを目指していきたい。(愛知県協会)

関東

埼玉県協会NPO法人申請

埼玉県オリエンテーリング協会は11月28日に設立総会を開催し、来年4月以降NPO法人としてスタートを切る予定である。

オリエンテーリングの普及活動を行なうにあたり、NPO法人化することで社会的な信頼が得られ、その活動が円滑に促進できるとの結論に達し、平成22年5月の総会でNPO法人化を進めることの決議を承認し、定款などの検討を重ねてきた。

オリエンテーリング関係では、愛知県オリエンテーリング協会とトレイル・オリエンテーリング協会がすでにNPO法人となっている。